

東北活性研フォーラム

「『東北 society5.0』を考える」

昨今話題の「第4次産業革命」を主導する先端技術開発動向を紹介し、こうしたイノベーションの進展によって、地域の経済や社会がどのように変容していくのかについて考え、そのポテンシャルを東北の輝かしい未来創出に向けて積極的に活用する機会とする目的で開催し、約110名の聴講者の参加があった。

開催概要

日 時 平成30年2月22日(木) 14:00～17:20

会 場 TKP ガーデンシティ仙台(アエル21階)

【プログラム】

1. 開会・主催者代表挨拶

公益財団法人東北活性化研究センター 会長 海輪 誠

2. 基調講演

①「人工知能の社会実装と Society5.0 ～東北版 Society5.0の可能性を探る～」

国立研究開発法人産業技術総合研究所 人工知能研究センター長 辻井 潤一 氏

②「近未来技術による地方創生～次世代移動体システム～」

国立大学法人東北大学 未来科学技術共同研究センター長 長谷川 史彦 氏

③「デジタルが拓く持続可能な都市づくり」

日本電気株式会社 未来都市づくり推進本部シニアマネージャー 高木 秀和 氏

3. ディスカッション

東北活性研・木村常務理事(ファシリテータ)＋パネラー講師(3名)

4. 閉会挨拶

国立大学法人東北大学 理事 矢島 敬雅 氏

<主催>

国立研究開発法人産業技術総合研究所東北センター、国立大学法人東北大学

公益財団法人東北活性化研究センター

<後援>

経済産業省 東北経済産業局、宮城県、(一社)東北経済連合会、(公財)みやぎ産業振興機構、

(一社)みやぎ工業会、(公財)仙台市産業振興事業団

開会・主催者代表挨拶

(公財) 東北活性化研究センター 会長 海輪 誠

本フォーラムでは、「東北 society5.0を考える」をテーマと致しました。「Society5.0」は、わが国が目指す新しい社会のあり方を表すキーワードとして今日では広く用いられています。

この概念はただ単に、国や行政が“お題目”としてあげているものではなく、この動きが、東北の産業経済や地域社会まで大きく影響するものと見て間違いありません。本フォーラムを通じて皆様の連携の輪を広げていただき、2018年が「東北 society5.0」実現に向かってのスタートの年になること祈念いたします。



(挨拶：海輪 誠 会長)

講演1. 「近未来技術の社会実装と Society5.0 ～東北版 Society5.0の可能性を探る～」

国立研究開発法人産業技術総合研究所 人工知能研究センター長 辻井 潤一 氏

スマートフォンに掃除ロボット、自動運転等々、社会のあらゆる場面に人工知能 (AI) が組み込まれていく動きが加速しています。これまではいわば研究者による研究開発の取り組みにすぎませんでしたが、いよいよ人工知能 (AI) が社会実装される時代がやってきました。

今日 AI 開発は、「人間に迫る人工知能」(会話ロボット、コンピュータ将棋・碁、深層学習、言語理解 等)と、「人間を越える人工知能」(ビッグデータ、データサイエンス)の2つの流れが統合しながら進展しています。



(講師：辻井 潤一 氏)

この動きがこれから本格化すると、見る・聞く、考える、動くという機能が三位一体化し、人間と協働して様々な課題を解決しながら社会全体を最適化していくことになります。AI 等の先端技術の社会実装については、様々な分野の方々と一緒に取り組んでいくべきだと思います。

＜ AI に関わる最近の研究開発事例紹介＞

- ・データのセンシングと認定
- ・動き回るロボット
- ・消費者セグメントと行動理解
- ・匠の技の伝承
- ・国内外の大学や研究機関、産業界、ベンチャー企業との連携推進

講演2. 「近未来技術による地方創生～次世代移動体システム～」

国立大学法人東北大学 未来科学技術共同研究センター長 長谷川 史彦 氏

未来科学技術共同研究センター (NiChe) は大学の知的資源をもとに、社会の要請に応える新しい技術・製品の実用化並びに新しい産業の創出を社会へ提案することを目指しています。

(※青葉山キャンパス他の実証実験、分野融合による先端技術開発の取組みについて紹介された。)

＜東北大学の先端技術開発事例＞

- ・東北大学が製作した各種改造 EV 車両
- ・青葉山キャンパス、泉パークタウンでの実証実験
- ・仮想交通実験環境による実証・評価検証
- ・特区を活用した無人走行システムの自動走行実験
- ・ドローンによる橋梁点検の実現
- ・安全かつ高信頼性のリチウムイオン二次電池の革新的量産技術開発



(講師：長谷川 史彦 氏)

講演3.「デジタルが拓く持続可能な都市づくり」

日本電気株式会社 未来都市づくり推進本部 高木 秀和 氏

日本は世界のどこよりも早く深刻な社会課題に直面します。本格的な人口減少・少子高齢化時代に突入した日本では、これまでの経済循環モデルは通用しません。高度成長期から続く従来の社会基盤の変革が求められています。「Society5.0」を主導する技術革新の動きは、この変革を進めるうえで重要な鍵を握ります。

日本が直面する課題は、いずれ世界中が直面することになる課題でもあります。データ活用型の「柔らかな社会基盤」によるパラダイムシフトを推進し、自律的な経済循環モデルで全体最適化を図っていく新しい都市づくりは、これから世界のモデルとなります。

日本電気(株)では、ハードウェアに依存する従来の社会基盤から、産官学民の垣根を越えたデータ活用型の「柔らかな社会基盤」実現を通じて、「持続可能な都市づくり」に取り組んでいます。

今後は、なお一層地域社会において様々な課題に取り組まれている皆さまとの連携を積極的に進め、新しい社会モデルと一緒に実現してまいりたいと考えています。



(講師：高木 秀和 氏)

ディスカッション

ファシリテータ：(公財) 東北活性化研究センター 常務理事・事務局長 木村 研一

パネラー：基調講演者3名

イノベーションの動きを如何にして地域に根付かせ、地域が抱える社会課題の解決と地域発展に結びつけていくのか、その社会実装に向けた課題や人材育成等について、3名の講演者とパネルディスカッションを行った。

パネラー3名からは、「AI化すること自体が目的ではない。むしろAI等の技術によって地域が抱えている課題を解決するという目的を明確にしながら取り組むことが大切だ」、「実際に課題を抱える地域の人々と十分意思疎通し、課題を“見える化”することが重要」、「東日本大震災によって本当に必要なものは何かを知る経験したことが東北の人々の強みだ。社会が真に必要なことが何なのかを考えて取り組めるのは東北だと思う」等の発言があったほか、「変化の激しい時代においては、自ら課題を見出し、解決策を提案し、様々な関係者と連携しながら実際にやってみるといった、主体性のある自律的な人材が求められている」といった指摘が聞かれた。

ディスカッション後には、会場内の聴講者からも活発な質疑があり、今後の地域に向けての活動、高齢社会に向けた地域に根差したシステムの開発などについて話し合われた。



(ファシリテータ：木村 研一)



(ディスカッション風景)

閉会挨拶

国立大学法人東北大学 理事 矢島 敬雅 氏

今回のテーマが具体的に地場企業ないし、支援機関や教育機関の方々の理解の深化につながることを期待したい。“課題先進圏”である東北の置かれている状況をチャンスと捉え、地域の産学官金が互いに連携し合いながら、AI等新技術の社会実装を通じ、東北から世界に新しい社会モデルを発信していけるよう取り組んでいきたい。



(挨拶：矢島 敬雅 氏)

～アンケートでお寄せいただいた声～

- ・最近、話題になっている AI などの先端技術だが、自分にとって少し遠い存在のように感じていた。本日のフォーラムで地域の未来を創造していく上で、互いに連携し合うことの重要性がよく理解できた。これから仕事を進めていく上でも参考になった。(50代、会社員)
- ・「Society5.0」に関連する技術革新は、ビジネスのみならず地域社会の観点からも今後ますます重要になってくるだろう。社会実装を速やかに具現化する意味からも、このテーマについて継続的に実施していただければ良いと思う。(40代、会社経営)
- ・何といたっても新鮮な情報に触れるよい機会になりました。全体的なイメージと具体的事例が紹介され、新たな社会基盤を支える重要な技術となることなど、本日のフォーラム内容は大変メリハリがありました。(60代、会社員)
- ・AI や IoT など聞いたことのあるキーワードについては漠然と理解していたつもりだったが、今回のお話を聞いて、より具体的にイメージできるようになった。(50代、会社員)